



今年も猛暑の夏となりました！海と大地の自然館では、海の生き物観察会を5回開催し、毎回、暑さを吹き飛ばすような子どもたちの元気な声を聞くことができました。主催者側としてはうれしい限りです。さて、残暑は続きますが、今回のジオフィールドは、清涼感をもたらす夏のお花の話題です！

## 1. レッドリスト

皆さんは、レッドリストもしくはレッドデータという言葉は聞いたことがあるかと思います。絶滅したものを含めて絶滅が危惧される動植物を危険度でランク分けしたものです。ランクは図1のように7つのカテゴリーに分けられます。レッドリストには日本全体を対象に環境省が作成したものと各自治体が地域ごとに作成したものがあります。鳥取県では2002年に「鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物のリスト(鳥取県版レッドリスト)」を初めて作成し、2012年に1回目、今年の春(2022年)に2回目の改訂がされました。動物は445種、植物(菌類等も含む)は541種が選定されました。鳥取県では絶滅のおそれがあり特に保護が必要な動植物を**特定希少野生動植物**に指定しています。現在、海と大地の自然館では、山陰海岸ジオパークに生育する特定希少野生動植物の**ヒゴタイ**と**ミズアオイ**を栽培・展示しています。どちらも盛夏に花を咲かせます！紹介しますね。

レッドリスト カテゴリー ( )内は略字		具体的な種
絶滅(EX)	鳥取県では絶滅したと考えらる種	ニホンアシカなど26種
野生絶滅(EW)	野生では絶滅し、栽培下のみ存続している種	フジバカマなど3種
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種	イヌワシ、ゲンゴロウ、サクラソウなど181種
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅の危険が増大している種	オオサンショウウオ、ミナミメダカなど254種
準絶滅危惧種 (NT)	存続基盤が脆弱な種	ニホンモモンガ、オシドリ、キキョウなど359種
情報不足 (DD)	評価するだけの情報が不足している	ニホンザル、ニホンスッポン、ドジョウなど121種
その他の保護上重要な種 (OT)	鳥取県の地理的な自然特性等から保護の重要度が高い	アカハライモリ、キャラボクなど42種

図1. 鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物種のレッドリストのカテゴリー

## 2. 最終氷期に大陸から渡ってきたヒゴタイ(平江帯)

ヒゴタイ(写真1)はキク科ヒゴタイ属の多年生草本植物です。朝鮮半島から日本にかけて分布しており、最終氷期に大陸と陸続きだった時代の生き残りと言われていいます。日本国内では岐阜県と中国地方、九州と飛び飛びに分布しています。瑠璃色の小花が毬状に集まる花は美しく、8~9月に花期を迎えることからボウズバナ、ボンバナと呼び、盆の供花とする地域もあります。九州の草原では普通にみられる花でしたが、社会構造の変化とともに生育地である草原が減少したことに加え、採取等により現在は生育地のほとんどが危機的な状況にあります。

ヒゴタイは、環境省レッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類に、鳥取県では絶滅危惧Ⅰ類



写真1. ヒゴタイ (撮影地:鳥取県内)

に選定されています。鳥取県では 2002 年から特定希少野生動植物に指定されていますが、個体数の回復には至っていません。

ちなみに阿蘇ジオパーク内のヒゴタイ公園には、草原にヒゴタイの花が一面に咲くようです。あこがれます！

花言葉は、「実らぬ恋」です。実らぬ恋は人を成長させます。ヒゴタイも植物として生長して分布を広げてほしいです。

### 3. かつては田んぼの雑草のミズアオイ(水葵)<sup>みずあおい</sup>

ミズアオイ(写真 2)はミズアオイ科ミズアオイ属の一年生の草本植物です。北海道から九州、朝鮮・中国・ウスリー(ユーラシア大陸北東部)にかけて分布しており、かつては、日本全国の田んぼやため池、河川の停滞水域などに広く生育し、田んぼでは雑草とされていました。現在は除草剤の使用や河川改修などによる環境の変化で激減し、日本各地で絶滅の危機にあります。すでに絶滅した都道府県もあり、環境省は準絶滅危惧種に指定しています。鳥取県では 20 年前に生育地が減少し、絶滅をしたと思われていました。2017 年に再発見され、現在岩美町のみで生育が確認されています。今年 6 月に特定希少野生動植物に指定されました。



写真 2. ミズアオイ (撮影地: 鳥取県内)

草丈は 20~50cm、葉はハート形、やさしげな青紫色の花も愛らしく、8~10 月に開花します。盛夏のなか清涼感をもたらしてくれます。古名を水葱(ナギ)といい、葉を食用にしていたほど身近な植物でした。薬草や染物などにも利用されていたようです。

花言葉は、「前途洋々」です。ミズアオイの未来がそうであることを祈らずにはられません。

### 4. 特定希少野生動植物とは？

補足ですが、特定希少野生動植物は、特に保護が必要な動植物を各都道府県などが条例に基づいて指定するものです。(鳥取県の条例: 鳥取県希少野生動植物の保護に関する条例)。鳥取県では 2022 年のレッドリストの改訂で動物が全 7 種、植物が全 32 種指定されました。その種ごとに保護管理事業計画が立てられます。さらに植物の採取や動物の捕獲は、学術研究や保護目的等で許可を得た場合を除き禁止となります。採取には種子の採取も含まれ、損傷させてもいけません。条例に違反すると 1 年以下の懲役または 50 万円以下の罰金に処されることがあります。

しかし、このことをどのくらいの人知っているでしょうか。かつてはお盆のお花であったヒゴタイ、水田の雑草で食用でもあったミズアオイが、今では葉っぱ一枚採取することも許可が必要となったのです。心無い業者がいることも事実ですが、きれいなお花だと何気なく摘んだりすることもあります。身近な植物たちが私たちの気付かない間に個体数を減らし姿を消していつの間にか絶滅危惧種が増えています。次回のレッドリストの改訂では危惧種数を減少させたいと思いませんか。海と大地の自然館でもその一役を担えるよう、ヒゴタイやミズアオイを展示しています。また、この展示はとっとり生物多様性推進センターの希少野生動植物の保護活動の一環です。是非、レプリカではない生きたヒゴタイとミズアオイを見に来てください。(笠木)

### 5. 海と大地の自然館での展示

ジオパークは、地質や地形が保全されていたらいいというだけでなく、人類も含めてそこに棲む生きものたちが、その大地で生き活きと命を輝かせることを大切にしています。身近な植物は、大地の営みと人の営みによって育まれてきました。人の営みの変化が動植物に影響を与えて絶滅危惧種が増えています。次回のレッドリストの改訂では危惧種数を減少させたいと思いませんか。海と大地の自然館でもその一役を担えるよう、ヒゴタイやミズアオイを展示しています。また、この展示はとっとり生物多様性推進センターの希少野生動植物の保護活動の一環です。是非、レプリカではない生きたヒゴタイとミズアオイを見に来てください。(笠木)

《主な参考資料》 レッドデータブックとっとり改訂版(2012年3月発行、)

レッドリストの改訂(2022年1月) <https://www.pref.tottori.lg.jp/95805.htm>